

令和元年度 嘉島町教育委員会指定

小学校英語教育研究発表会

研究紀要リーフレット

< 研究主題 >

英語に慣れ親しみ

積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成



< 期 日 > 令和元年10月10日(木)

< 会 場 > 嘉島町立嘉島西小学校

< 主 催 > 嘉島町教育委員会

嘉島町立嘉島西小学校

◆ 本校の研究の構想図 ◆

＜嘉島西小学校 学校教育目標＞

ひとみ輝く 嘉島西っ子の育成

＜研究主題＞

英語に慣れ親しみ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

＜研究主題のとらえ方＞

「英語に慣れ親しむ」とは

英語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどを理解したり、日本語と英語の違いに気付いたりしながら、身近で簡単なことや自分の思いなどを英語で聞いたり話したりするなどの活動を通して、英語に繰り返し触れること。

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする」とは

コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、相手や他者に配慮しながら、相手の思いなどを聞いて理解しようとしたり、進んで自分の思いなどを分かりやすく伝えようとしたりすること。

＜研究の視点2＞英語に慣れ親しみ コミュニケーションの
楽しさや大切さを実感できる授業づくり

- (1) コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める工夫
- (2) 英語に慣れ親しむ活動の充実
- (3) 評価の工夫

他教科等の
学習の充実

自他を尊重する
態度の高まり

外国語活動の充実
英語の日常活動の充実

＜研究の視点1＞指導体制の充実

- (1) めざす児童像の明確化
- (2) 英語コーディネーターとALTを生かした指導体制
- (3) 他教科等の学習との連携
- (4) 教師の指導力向上研修の実施
- (5) 小小連携、小中の連携の充実

＜研究の視点3＞

英語に慣れ親しめる環境づくり

- (1) 英語に慣れ親しむ日常活動の実施
- (2) 英語に関する掲示の充実

学級経営の充実

(支持的風土、基本的生活習慣、学習規律 等)

◆ 〈研究の視点2〉（英語に慣れ親しみ コミュニケーションの楽しさや大切さを実感できる授業づくり）について ◆

（1）コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める工夫

① 単元のゴールとなるコミュニケーション活動の設定

児童が目的意識や相手意識をもったり、必然性を感じたりしながら単元の学習を進めることができるようにする。

② コミュニケーションの場面の可視化

ロールプレイ、動画、絵、写真などでコミュニケーションの場面を可視化することで、児童が目的、場面、状況を理解して活動できるようにする。

③ 「Good Communication」の指導

よりよいコミュニケーションを行う際の5つのポイント（Eye contact, Clear voice, Smile, Reaction, Gesture）を指導し、児童がそれらを意識して活動できるようにする。

（2）英語に慣れ親しむ活動の充実

① 英語の表現の意味や発音を理解させる指導の工夫

会話モデルや文字の提示の仕方を工夫することで、児童が表現の意味を理解したり、正しく発音したりできるようにする。

② 歌やチャンツの工夫

歌やチャンツを工夫することで、児童が表現を何度も聞いたり言ったりして十分に慣れ親しむことができるようにする。

③ ゲームの工夫

ゲームの特性を明確にし、目標や児童の実態に合ったゲームを設定することで、児童が楽しみながら表現に慣れ親しむことができるようにする。

④ リハーサルタイムの設定

コミュニケーション活動の前に、その活動で使用する表現を再度確認したり、1人やペアで練習したりする時間を設定して、児童が自信をもって英語を話すことができるようにする。

⑤ 「Nice Reaction!」の指導

会話を続けたりはずませたりする表現を適宜指導することで、児童が既習表現等を用いながら会話を続けることができるようにする。

⑥ 読みや書きの指導

音声（聞くこと、話すこと）に十分に慣れ親しませた上で読んだり書いたりできるようにする。書く活動については、日本語との文構造（語順）の違いに着目しながら、書くことができるようにする。

（3）評価の工夫

① コミュニケーション活動の中間評価

学習のめあてを達成するために、工夫や努力をしている児童をコミュニケーション活動の途中で、他の児童に紹介することで、児童が本時のめあてを達成できるようにする。

② 振り返りカードによる自己評価

児童が自分の学習の達成状況を自己評価したり、気づき、発見、疑問などを記入したりできる振り返りカードを作成する。

③ 単元チャレンジカードによる自己評価

単元を通してできるようになることをリストとして提示し、児童が各項目の達成度を自己評価できるようにする。

④ パフォーマンステストによる評価

第5・6学年では「聞くこと」「話すこと」の定着状況やコミュニケーションへの関心・意欲・態度を見取るためにパフォーマンステストを実施する。

◆ 研究の授業実践例① ～第3学年～ ◆

単元名「How many?～数えて遊ぼう～」(Let's Try!1 Unit3)

単元のゴールとなるコミュニケーション活動名

「オリジナルの虫を紹介しよう！」

目標：数を尋ねる表現に慣れ親しみ、数を尋ねたり答えたりしている。(3/4)

難難	学習活動	教師の指導と評価	備考
課題をつかむ 8分	1 Greeting あいさつをする。 2 Warm-Up (1) 学習した数の表現を確認する。 (2) Let's Sing 「Ten Steps」 Chant 「How many?」  One, two, three... 3 Today's Goal 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	研究の視点(2)–② 前時までに行ってきた歌を歌って、ゲーム活動に必要な表現を言えるようにした。 研究の視点(2)–① 既習の表現を記した学習掲示物を見ながらふり返ること、安心して学習に取り組めるよう配慮した。	PC(デジタル教科書)、テレビ 学習計画表
【Today's Goal】友だちと数を尋ねたり答えたりしよう。			
しっかり考える 32分	4 Game クラップゲーム 5 Activity ビンゴゲーム (1) デモンストレーション (ゲームの流れ)(子ども役:C, 相手役:T) C: Hi! T: Hi! C: How many apples? T: Five apples. C: I see. (5のマスを塗る) T: How many apples? C: Twelve apples. T: I see. (12のマスを塗る) 互いに塗った後、カードを交換。 C: See you. T: See you. 互いにビンゴのマスを塗り終わった後、リンゴのカードを交換する。 (2) リハーサルタイム(ペア練習)  How many apples? (3) 活動 ①前半の活動 ②中間評価 ③後半の活動  Six apples!	研究の視点(2)–③ ゲームを行うことで、楽しみながら繰り返し発話し、表現に慣れ親むことができるようにした。 研究の視点(1)–② 担任と EC でデモンストレーションを行い、ビンゴゲームの見通しを持たせた。また、相手の話に対してアイコンタクトや笑顔を見せることで、楽しく活動できることを実感させた。 研究の視点(2)–④ リハーサルタイムでは、ゲームに必要な表現をペアで繰り返し練習させて、自信を持たせた。分からない・忘れてしまった表現も気軽に指導者に尋ねられる雰囲気をつくった。  【評価】先生に数を尋ねたり答えたりしている。 【外国語への慣れ親しみ】(行動観察・振り返りカード)	カスタネット 探検バイナダー/ワークシート/リンゴのカード
まとめる 5分	6 Looking Back 振り返りカードに本時の感想を記入し、発表する。  7 Ending 終わりのあいさつをする。	研究の視点(3)–② 振り返りカードに学習のめあてについて達成感や気づき、発見を記入させることで、学習の成果と課題を確認したり、次時の学習や単元のゴールとなるコミュニケーション活動への意欲を高めたりできるようにした。	振り返りカード

◆ 研究の授業実践例② ～第5学年～ ◆

単元名「When is your birthday?」(We Can!1 Unit2)






単元のゴールとなるコミュニケーション活動名

「お世話になっている先生にバースデーカードを作って贈ろう！」

目標：先生とのインタビュー活動を想定して、誕生日について伝え合おうとする。(5/7)

学習過程	学習活動	教師の指導と評価	備考
課題をつかむ 8分	<p>1 Greeting あいさつをする。</p> <p>2 Warm-Up (1) Daily Questions (2) 学習してきた表現をチャンツで確認する。 (3) Small Talk 3 Today's Goal 本時の学習課題を確認し、学習の見直しをもつ。</p>  <p>What do you want?</p>	<p>研究の視点(2)–② 前時までに行ってきたチャンツをして、インタビュー活動に必要な表現を言えるようにした。Small Talk では、既習の表現を用いた教師の話の聞いたり、簡単な質問に答えたりすることで、既習事項を想起できるようにした。</p> <p>研究の視点(1)–① 本時が先生へのインタビュー活動のリハーサルの位置付けにあたることを確認し、場面や状況を意識して活動できるようにした。</p>	PC(デジタル教科書)、テレビ 学習計画表

【Today's Goal】誕生日についてインタビューをしよう(先生へのインタビューのリハーサル)。

しっかり考える 32分	<p>4 Game すごろくゲーム</p> <p>〈ゲームの流れ〉※4人グループ ・順番を決め、サイコロを振り、出た目だけ進む。 ・止まったマスに書かれた内容を言う。(先生に言いに行ったり、全員で言ったりする、などのマスがある。) ・時間内にゴールを目指す。</p> <p>January, February...</p> 	<p>研究の視点(1)–②、(2)–④ 担任とECでデモンストレーションを行い、相手の話に対してリアクションをすることや相手の反応を確認しながら話すことの大切さを感じられるようにした。</p>  <p>When is your birthday? My birthday is~.</p>	すごろくシート、サイコロ、駒
	<p>5 Activity (インタビューのリハーサル)</p> <p>(1) デモンストレーション</p> <p>〈インタビューの流れ〉(子ども役：C、先生役：T) C: Hello. T: Hello. C: When is your birthday? T: My birthday is~. C: What do you want? T: I want~. C: What ~ do you like? T: I like~. C: That's all. Thank you. T: You're welcome. ※インタビューする側は、「Good!」「I see」などのリアクションを適宜する。</p> <p>(2) リハーサルタイム</p> <p>(3) 活動</p> <p>①前半の活動 ②中間評価 ③後半の活動</p> <p>中間評価での、望ましい児童の様子動画</p> 	<p>研究の視点(3)–① 単元で学習した表現や、既習表現を使って積極的にインタビュー活動をしている児童を中間評価で紹介し、本時の目標の達成に向けて、さらに意識して活動できるようにした。</p> <p>【評価】今まで学習してきた表現を用いて、誕生日について伝え合っている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】(行動観察・振り返りカード)</p>	パンダー、メモ用紙
まとめる 5分	<p>6 Writing バースデーカードに書く「HAPPY」の文字を書き写す。</p> 	<p>研究の視点(2)–⑥ 線の方向を声に出しながら、文字の形を意識して4線上に書き写すことができるようにした。</p>	
	<p>7 Looking Back 振り返りカードに本時の感想を記入し、発表する。</p>  <p>8 Ending 終わりのあいさつをする。</p>	<p>研究の視点(3)–②・③ 振り返りカードに学習のめあてについて達成感や気づき、発見、疑問を記入させることで、学習の成果と課題を確認したり、次時の学習や単元のゴールとなるコミュニケーション活動への意欲を高めたりできるようにした。</p>	振り返りカード

◆ 研究の成果と課題 ◆

(1) 研究の視点について (成果○ 課題▲)

- 児童が興味関心をもった単元のゴールとなるコミュニケーション活動を設定することで、学習への目的意識や学習意欲を高めることができた。【研究の視点(1)－①】
- 発音の練習では、日本語と英語の音声との違いなどを意識させながら発音をすることができた。【研究の視点(2)－①】
- コミュニケーション活動の前に教師のデモンストレーションをすることで、よりよいコミュニケーションのあり方について考えてから、活動に臨むことができた。【研究の視点(1)－③】
- 全員が意欲的に行い、満足できるようなゲームの工夫をすることで、児童が楽しみながら表現に慣れ親しむことができた。【研究の視点(2)－③】
- 中間評価で目標を達成している児童を紹介(動画や実際にやってもらう)することで、その後の活動でよりよいコミュニケーションをしようとする児童が増えた。【研究の視点(3)－①】
- Writing(高学年)の活動では、文字の形や4線上に書くことを意識させることができた。
【研究の視点(2)－⑥】
- ▲ チャンツによってスピードが速かったり、分量が多かったりして、英語に苦手感を抱く児童にとって難しい物があったので、チャンツの種類や指導を工夫する必要がある。【研究の視点(2)－②】
- ▲ 中間評価では、評価する視点が不明瞭になってしまうことがあったので、めあてに即した評価をしていく必要がある。【研究の視点(3)－①】
- ▲ コミュニケーションを円滑に進めるために、既習表現を積極的に使いながら自然なリアクションができるように工夫していく必要がある。【研究の視点(2)－⑤】

(2) 意識調査の結果から

＜意識調査の項目＞		
＜調査方法＞3～6年生の児童に意識調査を実施した。児童に各項目について「とても思う(4点)」「そう思う(3点)」「あまり思わない(2点)」「思わない(1点)」のいずれかで答えさせ、合計点を出し、人数で割って平均点を出した。※小数第2位以下は切り捨てて表示	平成30年 12月	令和元年 7月
① 英語を聞いたり話したりすることが好きだ。	3.1	3.1
② 学習した英語を使って自分の気持ちなどを伝えることができる。	3.1	3.1
③ 友だちや先生、外国の人など、できるだけたくさんの人と英語で話したい。	2.9	3.1
④ 外国語活動で学習したことは日常生活でも役に立っている。	2.8	2.9
⑤ 外国語活動で学習したことは他教科にも役に立っている。	2.7	2.8

意識調査の結果を見ると、昨年度と同様、外国語活動の時間や英語を話したり聞いたりすることに好意的に感じている児童が多い。また昨年度に比べて、英語を使っていろいろな人と話したいという、コミュニケーションへの意欲の項目が向上していた。これは、「英語に慣れ親しみ、コミュニケーションの楽しさや大切さを実感できる授業づくり」や「英語に慣れ親しめる環境づくり」の視点で、研究を進めてきた成果であるといえる。また、⑤の項目では、昨年度よりも向上していた。これは、学習の流れを他教科等でも提示するなど、「他教科等の学習の充実」を推進している成果といえる。

今後も研究主題「英語に慣れ親しみ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」に向けて、研究を積み重ねていきたい。

研 究 同 人

信國 満徳	中村 繁徳	中原 弘典	佐藤 順平	三原 美佳	堀田 大
島田 美保	前田 祐輔	前田 博美	三城 優子	松本 剛史	中山 友子
宮本 亜弓	吉野 由紀子	本田 美幸	森 慎太郎	本田 聡太郎	安部 拓哉
阿蘇品 博	松岡 恭司	西田 千恵	坂田 日和	井上 莉菜	伊藤 なつき
高浜 保昭	上野 沙耶加	大村 幸代	柿本 健太	前田 佳奈	藏田 裕貴
杉本 直子	坂田 寿美	栗崎 裕子	橋本 和美	篤岡 啓子	大迫 樹

McIlvride Madeline Marie

